

## 11. 農学部

|                 |       |
|-----------------|-------|
| (1) 農学部の教育目的と特徴 | 11-2  |
| (2) 「教育の水準」の分析  | 11-3  |
| 分析項目Ⅰ 教育活動の状況   | 11-3  |
| 分析項目Ⅱ 教育成果の状況   | 11-12 |
| 【参考】データ分析集 指標一覧 | 11-15 |

## (1) 農学部の教育目的と特徴

農学部は、それまでの3学科（応用生物科学科・生命機能科学科・生物環境科学科：学科別入試）構成を、2019年度から1学科4コース（4コース1括入試）構成に改組した。

農学部生物資源科学科では、激変する社会情勢、地域社会からの要請、また佐賀大学の将来構想に応じた、総合的かつ有機的な体制で農学部の特色ある教育研究を強化、発展させる4つの専門コース（生物科学コース、食資源環境科学コース、生命機能科学コース及び国際・地域マネジメントコース）を設置して教育研究を実施している。

構成する各コースの目的は、下記の通り。

1. 生物科学コース：地域の特色ある生物資源を活用した、高付加価値の新規農産物や新品種の開発や効率的で収益性の高い農産物生産技術の開発、また多様な生物と環境との関わりや、新たな機能性を持つ生物素材の産業利用に関する教育研究を行い、社会に貢献出来る人材を育成すること。
2. 食資源環境科学コース：地球規模の課題ともなっている環境保全やエネルギー開発をはじめ、農業生産システムに関する先端技術の開発を行うことで、農業の技術革新を地方から先導し、地域の農業基盤を支えることを目標としている。そのために農業機械・植物工場・コンピュータや通信等のICT技術、また土壌や環境水の分析化学等、農業生産に関する先端技術を幅広く学ぶ機会を提供し、地域の農業現場をリードする実践力を養成すること。
3. 生命機能科学コース：微生物からヒトにわたる幅広い生物の生命現象のしくみや機能の解明を行うとともに、それらを応用した食品機能の追求と開発、食品の安全性、バイオマスの利用等に関する教育と研究を行い、食と健康の分野で社会に貢献出来る人材を育成すること。
4. 国際・地域マネジメントコース：グローバルな視野から、地域社会における生活や生業、環境や健康の問題解決に寄与し、地域振興への貢献を目指し、農林水産とその関連産業の持続的発展を担う人材を育成すること。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7511-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○農学部では、佐賀大学学士力、及び佐賀大学農学部規則第1条に定めた学部・学科の目的に照らして、学位授与の方針を定めている。学位授与の方針は、学生に身につけさせる学習成果を具体的に示している他、卒業認定の方法、学位の審査方法について示している。この学位授与の方針は、本学ウェブサイト上に掲載し、学内外に広く公開している。

また、人材育成に関する社会的要請の変遷を鑑みながら、不断に見直しを行っており、2019年度改組後の学位授与の方針「基礎的な知識と技能」に、「言語・情報・科学リテラシーに関する授業料目の履修」、「日本語と英語を用いたコミュニケーション能力の修得」及び「情報通信技術（ICT）などを用いて多様な情報を収集・分析し、科学的合理性や科学的論理に基づいて判断し、モラルに則って効果的に活用する能力の修得」を盛り込んだ。（別添資料 7511-i1-1）（再掲）[1.0]

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7511-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○農学部では、佐賀大学学士力、及び佐賀大学農学部規則第1条に定めた学部・学科の目的に照らして、教育課程編成・実施の方針を定めている。農学部における教育課程編成・実施の方針は、学科および各コースにおける科目の配置など教育課程の編成、教育の実施体制、教育・指導の具体的な方法、各授業科目の成績評価の方法、及び佐賀大学学士力との対応を示したものであり、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、方針を明確かつ具体的に明示している。

教育課程編成・実施の方針は、本学のウェブサイト上にも掲載し、学内外に広く公開している。また、人材育成に関する社会的要請の変遷を鑑みながら、不断

## 佐賀大学農学部 教育活動の状況

に見直しを行っている。農学部の学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針は、いずれも佐賀大学学士力に沿ったものであり整合的である。(別添資料 7511-i2-1) (再掲) [2.0]

### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料 (別添資料 7511-i3-1)
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料 (別添資料 7511-i3-2~4)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2019年度の1学科4コース構成への改組に伴い、1年次では、農学基礎教育及び専門導入教育を施し、基礎学問をしっかり身につけた2年次より専門コースに配属するレイトスペシャライゼーションにより、幅広い分野の大学教育に触れながら、自らの適性や関心などに基づき出口を意識したコースを選択できる仕組みになっている。(別添資料 7511-i3-1) (再掲) [3.2]
- 2019年度の学部改組に伴い、「科学技術の進歩や社会構造の急激な変化に対応できる自由度の高い1学科制」「コース制により専門性が明確化、体系化されたカリキュラム」「全教員が有機的に連携する効率的な共通教育による基礎教育と応用力を高める専門科目の強化」「地域社会と協働する実践教育による学部シーズの地域社会への還元」「公務員、教職、各種資格関連科目をコース横断的に履修」といった特色ある教育カリキュラムを構築した。(別添資料 7511-i3-4) (再掲) [3.2]
- 2019年度の学部改組の際に、コースナンバリングに基づいた専門教育科目の体系性と水準を設定した。(別添資料 7511-i3-5~6) [3.1]
- 農学部教育委員会を中心としたシラバス点検体制を構築しており、各開講科目のシラバスにおける「佐賀大学学士力への対応番号」「授業のテーマ及び到達目標」「学習する学生の到達目標」「成績の評価基準」の記載についての確認を、毎年度の履修登録開始期間前に適切に実施している。(別添資料 7511-i4-2) [3.1]
- 学士課程における教育の質保証に関して、2019年度よりPDCAサイクル(教育コーディネーター、教育委員会、FD委員会、コース別教員会議)の構築と実施を行っている。(別添資料 7511-i3-7~8) [3.1]
- 日本有数の食糧生産県である佐賀県における地域志向教育として、「アグリキャリアデザイン(1年・前学期)」を開講し、農業とそれに関連する企業や組織、農

## 佐賀大学農学部 教育活動の状況

村地域社会におけるクリエイティブなマネジメント人材の育成をめざした教育を2019年度より行っている。(別添資料 7511-i3-9) [3.2]

○2019年度からの新カリキュラムにおいて、副専攻プログラムである「食農基礎技術マスタリー特別教育プログラム」を開設し、食と農に関する基礎技能を習熟・定着させることを目的として、4年間の農学部在籍期間中に要件を満たしたものに主専攻学位とは別にサブスペシャリティの修了証を授与する。(別添資料 7511-i3-10) [3.2]

○高度専門職業人を育成するために、大学院科目先行履修制度を2018年度より実施している(2018年度は先行履修者12名・11科目、2019年度は先行履修者9名・18科目)。そのうち、2018年度は5名、2019年度は9名が農学研究科へ進学した。また指導教員に対する進学後の就学状況確認を通じて、「研究に取り組む時間がこれまでより確保できたことで、その成果を早々に学会発表するなど、効果があった」ことを、農学部教育委員会の調査により確認した。(別添資料 7511-i3-11) [3.3]

### <必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料(別添資料 7511-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料(別添資料 7511-i4-2~3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数(別紙資料 7511-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料(別添資料 7511-i4-5)
- ・ 指標番号5、9~10(データ分析集)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○1年次に講義形式にて基礎学問を身につけた後、2年次より専門コースに配属される。専門的学問については、講義形式に加えて実験(生物学・化学実験など)、実習(フィールド実習など)、演習(専門分野演習など)を通じて、知識・技能の定着を図っている。(別添資料 7511-i3-1) (再掲) [4.1]

○研究倫理に関する指導については、「国立大学法人佐賀大学における公正な研究活動の推進に関する規程」第3条3項にて、学生への研究倫理教育及び啓発の実施を定めており、毎年研究室に配属(食資源科学コースは2年次、生物科学コース、生命機能科学コースおよび国際・地域マネジメントコースは3年次)された学生が研究倫理教本を用いた研究倫理学習をしたことを各指導教員が確認して

## 佐賀大学農学部 教育活動の状況

いる。(別添資料 7511-i4-6) [4.0]

○学生の能動的な学びを生み出すために、2019年度に開講した授業科目へのアクティブ・ラーニング導入率は100%である。より効果的な教育手法等の導入を支援するための反転授業やアクティブ・ラーニング等のFD講演を2019年11月にクリエイティブ・ラーニングセンター米満特任講師を招いて開催した。学生に対する能動的な学びに関する調査は、全学教務専門委員会にて調査方法が決定次第実施する。(別添資料 7511-i4-8) [4.1]

○学修成果の向上を図るために、農学部では時間割のクォーター制(週複数回授業)を2018年度より取り入れており、前学期には「農村環境計画学」、後学期に「CAD利用学」及び「熱帯有用植物利用学」で実施している。その効果や問題点の検証は、「週複数回授業・半期で終了する科目の成果及び改善報告書」により講義担当者が回答し、教務専門委員会が取り纏めている。(別添資料 7511-i4-7) [4.1]

### <必須記載項目5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料(別添資料 7511-i5-1~2)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料(別添資料 7511-i5-3~4)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料(別添資料 7511-i5-5) (別添資料 7511-i4-5) (再掲)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料(別添資料 7511-i5-6)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○「ポートフォリオ学習支援統合システム」に2019度から導入した学修成果の可視化機能(学士力に対応した学生の学習状況把握・目標設定・実施・検証に役立つ仕組み)について学部全教員に説明会を行い、後学期のチューター指導において、学生が可視化グラフによって確認した学修状況に対して具体的な目標を設定させるなど運用を開始した。可視化機能を備えたラーニング・ポートフォリオの活用による主体的な学修の好例は、2020年度に収集予定(方法を検討中)。(別添資料 7511-i5-7) [5.2]

### <必須記載項目6 成績評価>

#### 【基本的な記載事項】

## 佐賀大学農学部 教育活動の状況

- ・ 成績評価基準（別添資料 7511-i6-1）（別添資料 7511-i1-1）（再掲）  
（別添資料 7511-i2-1）（再掲）（別添資料 7511-i3- 1）（再掲）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 7511-i6-2～5）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 7511-i6-6～7）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育課程方針に即して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていることを確認し、必要な改善を行うことは、教育の質を保証していく上で重要である。そのため、毎年度、各部局で開講科目の成績評価の分布に基づいて、成績評価等の客観性、厳密性を担保するための組織的な点検を行っている。この点検は全学教育質保証専門委員会が実施している。また2019年度より、農学部における教育質保証に関するPDCAサイクルを実施し、組織的な「成績評価の分布の点検」を農学部FD委員会が中心となって実施した。（別添資料 7511-i6-2）（再掲）  
[6.1]
- 成績評価に関する情報の開示として、試験問題、模範解答、配点等の開示を「佐賀大学における学修成果にかかる評価の方法と基準の周知及び成績評価に関する情報の開示に関する要項」で定めている。（別添資料 7511-i6-8）[6.2]
- GPA制度は、学生に対するきめ細かな履修指導を実施するため導入されており、GPAの計算期日、通知、学修指導計画の策定について「佐賀大学における成績評定平均値に関する規程」第6、11、12条に定められている。GPA制度の趣旨については「GPA制度について（学生用説明文）」により学生に周知している。各学期のGPA計算期日にGPAを算出後、結果が各部局に配信される。農学部では、GPAの水準や学期ごとの変動をチューターが確認して指導を行うとともに、各コースの成績優秀者をGPAにより判定し、卒業時に学部長賞を授与している。（別添資料 7511-i6-3～4）（再掲）[6.0]
- 各開講科目のシラバス点検により、授業のテーマ及び到達目標について、学習する学生の到達目標を記載してあり、成績の評価基準についても、どのような観点で成績を付け、単位を付与するのかについての記載を確認している。（別添資料 7511-i4-2）（再掲）[6.1]
- 主体的な学修を促進するコモンルーブリック導入科目（2018年度に5科目実施、2019年度に4科目実施）において、ルーブリック評価の効果・成果の検証を2020年度に行う予定（方法を検討中）。またルーブリック導入科目での主体的な学修の好例を2020年度に収集する（方法を検討中）。（別添資料 7511-i6-9）[6.0]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7511-i7-1～4）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料

（別添資料 7511-i7-5～6）（別添資料 7511-i7-1）（再掲）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ラーニング・ポートフォリオにより、学生自らが学士カテゴリーの達成度を証明し、卒業認定を申請する制度の導入に向けて2020年度に検討予定。（別添資料 7511-i6-9）（再掲）[7.0]
- 毎年度、コース全教員と学部4年生による卒業論文発表会を行っている。その中で「背景から考察に至るまで、自身の卒業研究内容の独自性・社会的価値等を、一貫性をもって伝えているか。結果に基づいた考察が述べられているか。」を重視して評価を行っている。（別添資料 7511-i7-7）[7.2]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7511-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7511-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 高大連携活動の一環として、理系分野に関心がある県内の高校生を対象に、「科学」を発見・探求できる多面的な視点を育て、自らが知らなかった自身の適性や興味・関心を見つけることを目的としたカリキュラムとして2016年度より「科学へのとびら」を開講しており参加者136名（5校）のうち13名が本学部を受験するという成果を挙げている。（別添資料 7511-i8-3）[8.1]
- 2018年度の推薦入試からタブレット端末を利用したC B T基礎学力試験を導入したことにより、知識のみならず、解説を読んで間違いを正す能力があるかなど、より多面的・総合的な適正評価が行えるようになった。推薦入試入学者の質が向上したかどうかの検証は、2020年度に行う予定。（別添資料 7511-i8-4）[8.2]



## 佐賀大学農学部 教育活動の状況

- 農学部では、2019年度入試から主体性評価のための「特色加点制度」を導入し、志願者の活動・実績等をアドミッション・ポリシーに応じて加点形式で評価している。特別入試入学者の質が向上したかどうかの検証は、2020年度に行う予定。  
(別添資料 7511-i8-5) [8.2]

### <選択記載項目A 教育の国際性>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数 (別添資料 7511-i4-4) (再掲)
- ・ 指標番号 3、5 (データ分析集)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 佐賀大学では、学生に明確な学習目標を与え、自律的かつ持続的な学習を促し、英語教育の改善及び教育の質保証に資するために、2013年度以降に入学した全学部学生を対象に、1年次及び2年次に英語能力試験としてTOEIC-I Pを実施している。2018年度農学部入学者155名中153名(98.7%)が受験し、全学平均98.5%よりも良好な受験状況である。平均点については過去5年間で上昇しており、2018年度農学部入学者の平均520.6点は、全学平均455.9点を大きく上回っている。このことは、入学直後の学部オリエンテーションにおいて、英語学習の重要性を伝え、積極的な英語学習を促した成果であると考えられる。また農学部では、ラーニング・ポートフォリオシステムで学生ごとの得点状況を確認し、チューター面談の際に学習到達状況確認や英語学習への更なる取組(次の目標設定)を促すのに役立っている。(別添資料 7511-iA-1) [A.1]
- 佐賀大学では、海外留学を活発化し海外留学派遣者数を増加させるため、農学部(特に生物環境科学科)の特色を生かした派遣プログラム「アジアフィールドワーク」を実施し、その他の支援を含めて2018年度は23名の学生を短期海外派遣した。しかしながら、農学部においては、短期海外研修プログラム(SUSAP)、佐賀大学海外派遣支援制度やトビタテ留学JAPANなどの活用が十分ではなく、留学生増加のために積極応募を促している。(別添資料 7511-iA-2) [A.1]
- 優秀な外国人留学生の受入れにつなげるため、佐賀大学交換留学プログラム(SPACE-E)の講義について2018年度後期開講講義より改善を行った。農学部担当講義においては、これまでオムニバス形式で講義担当者が毎回変わっていたが、4名が複数回(4回)担当することとして、講義の狙い等を明確にするように改善を行った。短期留学受入れプログラムについては、農学部インドネシア

## 佐賀大学農学部 教育活動の状況

から7～8名が来日予定である。交換留学生の増加については、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）等の資金を獲得するため、農学部内の該当研究者に打診した。（別添資料 7511-iA-3）[A.1]

### <選択記載項目B 地域連携による教育活動>

#### 【基本的な記載事項】

（特になし）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 高大連携活動の一環として、理系分野に関心がある県内の高校生を対象に、「科学」を発見・探求できる多面的な視点を育て、自らが知らなかった自身の適性や興味・関心を見つけることを目的としたカリキュラムとして、2016年度より「科学へのとびら（高校1年生～3年生までの3年間のプログラム）」を実施しており、参加者136名（5校）のうち13名が2018年度に本学部を受験し、7名が入学するという成果を挙げている。（別添資料 7511-i8-3）（再掲）[B.0]
- 佐賀県立致遠館高等学校のスーパーサイエンスハイスクール事業において、「大学研修」を実施しており、16名が2018年度に当該校から本学部を受験するという成果を挙げている。（別添資料 7511-i8-3）（再掲）[B.0]
- 佐賀県立佐賀農業高等学校のスーパーグローバルハイスクール事業において、「出前講義」や「研究活動へのピアサポート」を実施しており、5名が2018年度に当該校から本学部の推薦入試を受験するという成果を挙げている。（別添資料 7511-i8-3）（再掲）[B.0]
- 地域連携実践キャリア教育として、九州圏内の企業へのインターンシップに農学部の学生が25名参加し、それらを「インターンシップIおよびII」にて単位化している。（別添資料 7511-i4-5）（再掲）[B.1]

### <選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

#### 【基本的な記載事項】

（特になし）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学部では、2018年度は、簡易版ティーチング・ポートフォリオ(TP)作成100%、標準版TP作成27.8%であり、メンター1名も確保している。2019年1月に、標準版ティーチング・ポートフォリオ(TP)作成にかかるFD講演会を実施すると共に、標準版TPにかかるアンケート調査を実施した。（別添資料 7511-iC-1

## 佐賀大学農学部 教育活動の状況

～2) [C.1]

- 自己点検・評価を毎年実施し、隔年で外部評価を行っている。その結果、「評価手法について、客観性と厳格性を追求しており妥当」「評価が評価基準に照らして妥当でない点はない」という報告の一方、「評価基準について、シラバス内容が学部・選考での理念と合致しているか、教員と学生の共通認識のもとでシラバスの実質化を検討する必要性」が指摘されており、それらを踏まえた取組計画を検討している。（別添資料 7511-iC-3） [C.2]

### <選択記載項目E リカレント教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 7511-iE-1～3）
- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 市民公開講座などの社会人向けの講演(2016.4～2019.2まで)累計が73件（うち、生物科学コース40件・食資源科学コース11件・生命機能科学コース19件・国際地域マネジメントコース3件）あり、リカレント教育への貢献を多数確認した。更なる推進として、2020年度前期より社会人向け授業開放科目に「アグリキャリアデザイン」を追加する。（別添資料 7511-iE-2～3）（再掲） [E.1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7511-ii 1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7511-ii 1-1）（再掲）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2013～2017年度の教員免許取得数は、中学理科 15、高校理科 40、農業 12であった。直近では、2018年度（中学理科 0、高校理科 1、農業 2）、2019年度（中学理科 1、高校理科 3、農業 1）であった。（別添資料 7511-ii 1-2～3） [1.2]
- 在学期間中の学士力の達成評価に外部アセスメント試験を活用しており、英語力の向上についてはTOEICを、ジェネリックスキルの向上についてはPROG試験を実施している。（別添資料 7511-ii 1-4～5） [1.2]

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学部においては、多様なキャリアパスの提示、企業とのマッチング、各種インターンシップの実施により、学生の就職支援を行っている。その結果、卒業生・修了生の主な就職先は、食料品・飲料・たばこ・飼料製造業を中心に、情報通信業、製造業、化学工業・石油・石炭製品製造業、建設業や農業・林業となっている。また、卒業生のうち、12～18%が国家公務・地方公務につき、14～23%が修士課程へと進学している。（別添資料 7511-ii 2-1～2） [2.1]

### <選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
（別添資料 7511-ii A-1）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学部4年生（卒業予定者）対象の共通アンケートを行っている。2018年度の集計

結果によると、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーという言葉の理解度が低い（62.5%、56.3%、50.6%）ようではあるが、成績評価に関する情報開示制度、異議申し立て制度や卒業認定の基準等については理解度が高かった（78.8%、83.8%、95.1%）。パソコン設置、インターネット環境、自習スペース等への満足度は「どちらとも言えない」の比率が高かった。最終的に、ラーニング・ポートフォリオを活用したチューター指導や佐賀大学の教育に対する満足度は高い結果となった（78.2%、80.7%）。（別添資料 7511-ii A-1）（再掲）[A.1]

### <選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 2016～2017年度：卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7511-ii B-1）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○農学部改組にあたって、WEB上またはアンケート用紙の送付により行った卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取結果においては、「基本的な理解力、思考力、判断力」「コミュニケーション能力」「他者との協調・協働により課題を解決出来る能力」「倫理観、規範意識、社会的責任感」等の習得について特に満足度が高く、その他にも「知識や情報を収集し、適切に活用・管理出来る能力」「専門分野の基本的な知識・技法の習熟」「課題を多面的に考察し、解決方法を見出す能力」「専門分野の知識・技法を応用し、課題を解決する能力」「持続的に学習し主体的に行動する意欲」などについても概ね満足度が高い。一方で、「英語能力を活かして情報の収集・発信ができる」「国際コミュニケーション能力と異文化理解能力」については、満足度が中央値以下であった。（別添資料 7511-ii B-1）（再掲）[B.1]

### <選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 2016～2017年度：就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
（別添資料 7511-ii C-1）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

## 佐賀大学農学部 教育成果の状況

○農学部改組にあたって、合同企業説明会に参加した企業（採用者）に対して行った（3～4年毎に今後も実施予定）アンケートの結果では、卒業生あるいは修了生が学習の成果として身につけた能力に対して、卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取結果においては、「基本的な理解力、思考力、判断力」「コミュニケーション能力」「知識や情報を収集し、適切に活用・管理出来る能力」「専門分野の基本的な知識・技法の習熟」「他者との協調・協働により課題を解決出来る能力」「持続的に学習し主体的に行動する意欲」「倫理観、規範意識、社会的責任感」等の習得について非常に評価が高く、その他にも「課題を多面的に考察し、解決方法を見出す能力」「専門分野の知識・技法を応用し、課題を解決する能力」などについても概ね満足度が高い。一方で、「英語能力を活かして情報の収集・発信ができる」「国際コミュニケーション能力と異文化理解能力」については、満足度が平均以下であった。（別添資料 7511-ii C-1）（再掲）[C.1]

## 【参考】データ分析集 指標一覧

| 区分              | 指標番号         | データ・指標                         | 指標の計算式                               |
|-----------------|--------------|--------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 学生入学・在籍状況データ | 1            | 女性学生の割合                        | 女性学生数／学生数                            |
|                 | 2            | 社会人学生の割合                       | 社会人学生数／学生数                           |
|                 | 3            | 留学生の割合                         | 留学生数／学生数                             |
|                 | 4            | 正規課程学生に対する科目等履修生等の比率           | 科目等履修生等数／学生数                         |
|                 | 5            | 海外派遣率                          | 海外派遣学生数／学生数                          |
|                 | 6            | 受験者倍率                          | 受験者数／募集人員                            |
|                 | 7            | 入学定員充足率                        | 入学者数／入学定員                            |
|                 | 8            | 学部生に対する大学院生の比率                 | 大学院生総数／学部学生総数                        |
| 2. 教職員データ       | 9            | 専任教員あたりの学生数                    | 学生数／専任教員数                            |
|                 | 10           | 専任教員に占める女性専任教員の割合              | 女性専任教員数／専任教員数                        |
|                 | 11           | 本務教員あたりの研究員数                   | 研究員数／本務教員数                           |
|                 | 12           | 本務教員総数あたり職員総数                  | 職員総数／本務教員総数                          |
|                 | 13           | 本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)        | 職員総数(常勤)／本務教員総数<br>職員総数(常勤以外)／本務教員総数 |
| 3. 進級・卒業データ     | 14           | 留年率                            | 留年者数／学生数                             |
|                 | 15           | 退学率                            | 退学者・除籍者数／学生数                         |
|                 | 16           | 休学率                            | 休学者数／学生数                             |
|                 | 17           | 卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率         | 標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数             |
|                 | 18           | 卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率 | 標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数       |
|                 | 19           | 受験者数に対する資格取得率                  | 合格者数／受験者数                            |
|                 | 20           | 卒業・修了者数に対する資格取得率               | 合格者数／卒業・修了者数                         |
|                 | 21           | 進学率                            | 進学者数／卒業・修了者数                         |
|                 | 22           | 卒業・修了者に占める就職者の割合               | 就職者数／卒業・修了者数                         |
|                 | 4. 卒業後の進路データ | 23                             | 職業別就職率                               |
| 24              |              | 産業別就職率                         | 産業区分別就職者数／就職者数合計                     |

※  部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※  部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。